

潮線上の海藻から1個体分離された。色彩、形態、ことに鱗片状の赤色眼点を持つことから、ヨーロッパの地中海沿岸に分布の記録のある *Otocelis rubropunctata* (O.SCHM) と認められる。これで今まで報告のあった *Convoluta*, *Amphiscolopus* の2属に更に、この2属が本邦産の *Acoela* の属として加えられる。本邦沿岸の海産小型の渦虫には (*Acoela*, *Rhabdocoela*, *Allocoela* 等) 未だ多くの未記録種がある。

日本産紐形動物の分布について

岩 田 文 男
(北大・厚岸臨海)

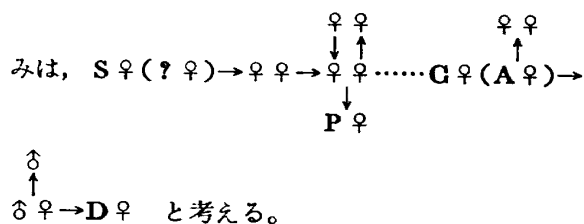
1949—1956年の春・夏期に日本各地23箇所の沿岸で紐形動物の採集を行なった結果、現在迄に53種が判明している。これらに既存種を加えた106種の日本産紐形動物の内、30種は広い分布を示す。これらの内、18種は国外にも分布する。分布は明らかに寒・暖海流に影響され、15北方系種、12南方系種、3固有系種に分けられる。国外に分布する9北方系種の内、8種はアラスカから報告され、6種は更に南下して米国北部沿岸に達する。国外に分布する9南方系種の内、5種は西南太平洋、インド洋東部から採集されている。北方系種は親潮海域の北海道に分布するが、全道沿岸に広がる種と太平洋側と日本海側に限られる種が区別される。8種は更に南下し、その多くは関東南岸と佐渡ヶ島に達する。南方系種は黒潮に沿って分布し、その北限は関東南岸と佐渡ヶ島に求められる。3固有系種は我が国に広く分布する1種と北海道以外の太平洋側にいる種がある。

輪虫類における新しい雌型の存在とその意義

鈴 木 実
(埼玉大・文理・生)

輪虫類の♀には古くから♀♀・♂♀・D♀の3型が知られている。これらの♀のうち Lehmsick (1926)が *Asplanchna* に於て♂♀=D♀の個体を見出して以来、♂♀が受精すればD♀となることが明らかとなった。Kolisko(1945)がP♀を見出してからは雌が4型からなることは認められたが、♀♀と♂♀

または♀♀とD♀との関係は依然不明であった。演者(1955)は *Asplanchna* に於て♂♀=D♀以外♀♀=♂♀の個体を見出し、さらに最も普通のワムシ *Brachionus* に於ても♀♀=♂♀の個体を確認した。最近 Bogoslawski (1960) は *Conochiloides* に於て同様な事実を見出している。形態変異や雄出現の条件からこうした型の♀は存在しうるはずである。このような型の♀を演者はG♀と名付ける。演者の考えによれば通常のワムシの世代交代のしく



唇口苔虫類の初室の系統的意義

馬 渡 静 夫
(資源研)

唇口苔虫類は触手の出入を支配する体内圧の調節機構として特異な調整囊 (compensatrix) をもつ有囊類 (Ascophora) とこれをもたぬ無囊類 (Anasca) とに分けられるが、その系統的關係については定説がない。一方幼生は着生時組織崩壊を伴う変態によって初室 (ancestrula) をつくり、これより出芽によって群体を完成する。初室は円形乃至楕円形で表面に広い膜質部とこれを囲む多くの棘を具え、普通虫室と大いに形態を異にする。この初室は無囊類裸壁類 (Malacostega) の *Calloporidae* を中心に多くの苔虫に見られ、その退化、伸長、石灰質腹壁の発達を辿ると現在の苔虫各群の關係に或る系列のあることが認められ、混乱した科の位置の是正に役立つ真の系統關係は多くの形質の発達変化を総合的に考察して判断すべきであるが、この意味で初室の出現の仕方、その発達分化が少なくとも一つの手がかりとして参考にするに値するものと思はれる。

Certonardoa semiregularis (MULLER et ROSCHEL) アカヒトデについて

林 良 二
(富山大・文理・生)

Certonardoa は Clark(1921)によって *Nardoa* か